

東京 2020 参画プログラム ガイドライン

-東京 2020 教育プログラム 学校編 -

2018年10月

**公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会**



オリンピック・パラリンピックにおける教育プログラムとは

オリンピックは、世界中のアスリートが競い合う姿を目にすることを通じ、自己ベストを目指して努力することの尊さ、スポーツを通じた友情や尊敬を学ぶきっかけとなる。また、様々な障がいのあるアスリートが創意工夫を凝らして限界に挑むパラリンピックにおいては、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し、活躍できる機会が与えられており、共生社会の重要性を学ぶきっかけとなる。オリンピック・パラリンピック教育は、このように教育的な価値を持つオリンピック・パラリンピックのテーマを教育活動に取り込むものである。

2012 年のロンドン大会及び 2016 年リオ大会においては、全国の学校が大会の教育プログラムに参加し、様々なスポーツ競技や文化事業等の大会関連事業と結びつきながら、4 年間に渡り教育プログラムが展開された。

東京 2020 組織委員会においても、オリンピック・パラリンピックについて、開催時期のみ盛り上がる一過性のものではなく、日本全国の子供たちの心にレガシーを残せるものとするため、文部科学省、全国の自治体、学校、スポンサー企業等と連携して、「東京 2020 教育プログラム」（愛称：ようい、ドン！）を展開していく。

東京 2020 教育プログラムについて

<目的>

東京 2020 大会ビジョン（全員が自己ベスト、多様性と調和、未来への継承）に基づき、オリンピックの 3 つの価値（卓越、友情、敬意／尊重）、パラリンピックの 4 つの価値（勇気、強い意志、インスピレーション、公平）、スポーツの価値（チャレンジすることや努力を学ぶ態度、ルールの尊重、フェアプレーの精神）を学ぶ機会を提供し、日本の子供たちに以下のようなレガシーを残していく。

<基本的な考え方>

残すべき 3 つのレガシー

レガシー①：

- ・失敗を恐れず自ら行動を起こす人材、将来に向かって自信と勇気を兼ね備えた人材を育てていく

レガシー②

- ・障害の有無、人種、言語等、様々な違いがあることを理解しつつ、共につながり、助け合い、支え合って生きていく力を身に付ける（多様性の理解）

レガシー③

- ・東京 2020 大会を契機に、国際社会や地域社会の活動に関心を持って、主体的、積極的に社会に参画できる人材を育てていく

東京 2020 参画プログラムガイドライン -東京 2020 教育プログラム 学校編-

1 目的

このガイドラインは、公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、「東京 2020 組織委員会」という。）が行う東京 2020 教育プログラム（愛称：「ようい、ドン！」）のうち、オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校を、東京 2020 オリンピック・パラリンピック教育実施校（愛称：「ようい、ドン！スクール」）として、その教育事業を認証するための手続きを説明するものである。

全国の教育委員会や学校等と連携し、東京 2020 オリンピック・パラリンピック教育事業が全国に広がり、児童・生徒がオリンピック・パラリンピック、スポーツの価値を学習する機会や、多様な国や文化に触れる機会、アスリートと交流できる機会等を促進し、2020 年やその先に向けた、次代を担う人材を育成することを目指す。

2 認証の対象

下記の学校※¹が実施する事業

1. 日本全国に所在する下記の学校が実施する事業

幼稚園※²、幼保連携型認定こども園※²、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校、専修学校高等課程（高等専修学校）※²、各種学校として認可を受けた外国人学校（留学生を対象とする日本語学校を除く）※²

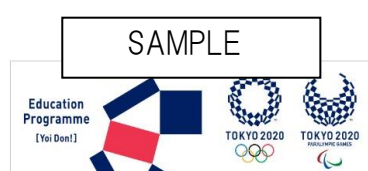
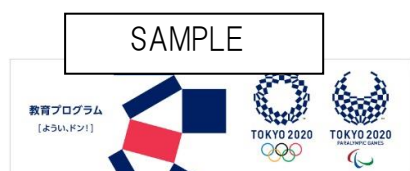
2. 日本国外に所在する日本人学校（私立在外教育施設を含む。以下、同じ）が実施する事業

※¹ 国立・公立・私立は問いません。私立の小・中・高等学校については、原則、学校法人が設置するものに限ることとします。また、本ガイドラインにおいては、表現の簡素化のため、上述の学校等を「学校」と記載します。

※² 幼稚園、幼保連携型認定こども園、専修学校高等課程（高等専修学校）及び外国人学校については、学校法人以外が設置するものも含むこととします。

3 事業の認証を受けた学校が実施可能な事項

1. 事業の認証を受けた学校は、当該事業の告知・実施・報告活動において、事業の肩書として以下のマークを使用することができる。ただし、教育現場（「教育現場」の範囲については、別添「マーク等取扱い基準」を参照）での使用を超えて、不特定多数の人々に向けて使用する際は、後記5に記載の手続きに従って、当該マークを使用する製作物等のイメージを事前に申請の上、承認を受けることを条件とする。



2. 事業の認証を受けた学校は、当該事業の告知・実施・報告活動において、事業の肩書として、以下の用語（以下、上記3 1. 記載のマークと併せて、「マーク等」と言う。）を使用することができる。ただし、**教育現場での使用を超えて、不特定多数の人々に向けて使用する際は、後記5に記載の手続きに従って、当該用語を使用する製作物等のイメージを事前に申請の上、承認を受けることとする。**

・東京 2020 オリンピック・パラリンピック教育実施校
(英語：Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Education School)

〔 愛称 日本語：「ようい、ドン！スクール」
英語：「Yoi, Don！School」 〕

3. 事業の認証を受けた学校は、「東京 2020 マスコット出演ガイドライン（学校用）」に基づき、当該校における運動会、体育祭、文化祭、周年行事又はこれに類するものと認められるもの（以下、「学校行事等」と言う。）における東京 2020 大会マスコットの出演申請することができる。

4. 事業の認証を受けた学校は、「東京 2020 オリンピックマスコットガイドライン」及び「東京 2020 パラリンピックマスコットガイドライン」に基づき、マスコットイラストを使用することができる。ただし、教育目的又は教育的かつ機運醸成につながる目的以外で使用する際は、後記5に記載の手続きに従って、マスコットを使用する製作物等のイメージを事前に申請の上、承認を受けることとする。

※申請不要でマスコットイラストをご活用いただける事例

・事業の認証を受けた学校における教育目的での活用

例：学校において作成する学習教材での使用、学校内での掲示、
学習活動として児童・生徒による作品制作

・事業の認証を受けた学校における教育的かつ機運醸成につながる活動

例：学級通信や学校だより等、学校関係者向けの広報物での使用

※ 学校の PR を目的とした使用（学校案内等）や、ウェブサイト・SNS 等における広く一般に対する発信に係る使用は、別途、申請をお願いいたします。

5. 東京 2020 教育プログラム（ようい、ドン！）では、本ガイドラインに基づき、上記2に記載の学校が実施する事業を認証しているが、別途、東京 2020 参画プログラムとして、スポンサー企業、大学、非営利団体等が開発する教育プログラムを、東京 2020 組織委員会が審査・認証している。この場合において、東京 2020 教育プログラムとして事業の認証を受けた学校は、これらのスポンサー企業、大学、非営利団体等による教育プログラムの受け入れ対象校となり、別途東京 2020 組織委員会が定めるところにより、当該スポンサー企業、大学、非営利団体と協力して当該教育プログラムを実施する場合がある。

4 認証の基本方針

1. 審査の基準

ようい、ドン！スクールの事業認証にあたっては、以下の基準により、申請を行った学校の事業を総合的に審査する。

(1) 「東京 2020 教育プログラムについて」に記載する目的及び基本的な考え方（本ガイドライン 1 ページ参照）に基づいて、オリンピックの価値・パラリンピックの価値を学習している。

(2) 東京 2020 組織委員会が作成する又は認める学習教材（後述 4. 2）に基づく授業や、学校行事・体験活動等^{※3}を通じ、オリンピックの価値・パラリンピックの価値、スポーツの価値について学習できる機会が、学校の年間指導計画に盛り込まれており、計画的に取組を実施している。

^{※3} 幼稚園、幼保連携型認定こども園においては、学習教材に基づく授業ではなく、学校行事・体験活動等が中心となります。

(3) 学校全体で取組を行い、様々な教科や教育活動を通じて総合的に学習を行っている。

(4) マスコット投票等、組織委員会が学校を対象として展開する事業に参加した実績がある。

（授業・学校行事等の実践例）

生活	・ オリンピック・パラリンピックを支えるボランティアの仕事の学習や体験活動 ・ 障がいのある人が感じる不便や不安を直接体感する体験活動
音楽・美術	・ 過去の大会の開会式や表彰式における各国の国歌鑑賞 ・ 障がい者アートの鑑賞
道徳	・ オリンピック・パラリンピックの価値について考え、差別をなくし公平な態度や心情のかん養
外国語活動 ・ 国際交流	・ 地域の良さや特徴を伝える実践を通じて、外国語に対する興味・関心を育成 ・ 世界の国々の文化や歴史の学習や交流活動（例： 学校単位で応援する国を一つ決め、相手国の歴史、文化、言葉を学んだり、交流を図る「一校一国運動」等） ・ 日本の伝統的な礼儀・作法やおもてなしの心、国際的なマナー・エチケット、礼儀・作法や習慣などの学習 ・ 地域の留学生や外国人、インターナショナルスクール、大使館等との交流 ・ 手紙、メール、直接交流等による海外の姉妹校との交流
体育・運動会	・ オリンピアン・パラリンピアン等のアスリートやスポーツ指導者と児童・生徒との直接的な交流 ・ 障がい者スポーツ・パラリンピックスポーツの観戦・体験 ・ オリンピックやパラリンピック種目の運動会・体育祭への導入
学校間のスポーツ交流	・ 障がいのある生徒と障がいのない生徒によるスポーツ交流において、お互いが共に楽しむことができるスポーツの実施 ・ 特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒と小学生・中学生・高校生との交流

総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域清掃、地域防災活動等への参加 ・ 地域のスポーツ大会、障がい者・高齢者介護施設等でのボランティア活動 ・ 地域や保護者と連携したオリンピック・パラリンピック教育の取組
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

なお、学校の宣伝等を主とするものや、特定の宗教的又は政治的な宣伝・主張を目的とするものは認証の対象外とする。

2. 東京 2020 組織委員会が作成する又は認める学習教材

教材は、下記 URL からダウンロード可能。

<https://education.tokyo2020.org/jp/teachers/texts/>

- 国際オリンピック委員会公認教材「OVEP(Olympic Values Education Programme)」
国際オリンピック委員会（IOC）が公認する教材。2 種類の教材で、オリンピックの 5 つの教育的価値の伝え方、学習方法を掲載。
- 国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE」（アイム・ポッシブル）
（印刷版・DVD）
国際パラリンピック委員会（IPC）が公認する教材であり、組織委員会が推奨するパラリンピック教材。小学校高学年向け及び中高生向けに作成され、年齢を問わず幅広く活用いただける内容となっている。
- 「オリンピック・パラリンピック学習読本」
東京都教育委員会が作成した教材を基本に組織委員会が更新し、小学校編（4-6 年）、中学校編、高等学校編の 3 部で構成。オリンピック・パラリンピックに関する基礎的な知識を深めることを目的としている。

この他、スポーツ庁より、「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」（DVD・指導案）（スポーツ庁作成）が、全国の全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に一部ずつ配布。なお、ウェブサイトでは公開していない。

3. 認証する期間

2016 年 10 月 1 日から 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了まで（本ガイドラインは随時改定予定。年度中も随時申請を受け付ける）

5 認証手続き

(1) 申請の流れ

1) 申請フロー

申請の流れについては、以下のとおり。

【公立学校】

都道府県・政令指定都市教育委員会^{※4}（以下、「管轄教育委員会」と言う。）が申請者として、各学校の事業に関する申請書類及び添付書類（以下、「申請書一式」と言う。）を東京 2020 組織委員会に提出する。

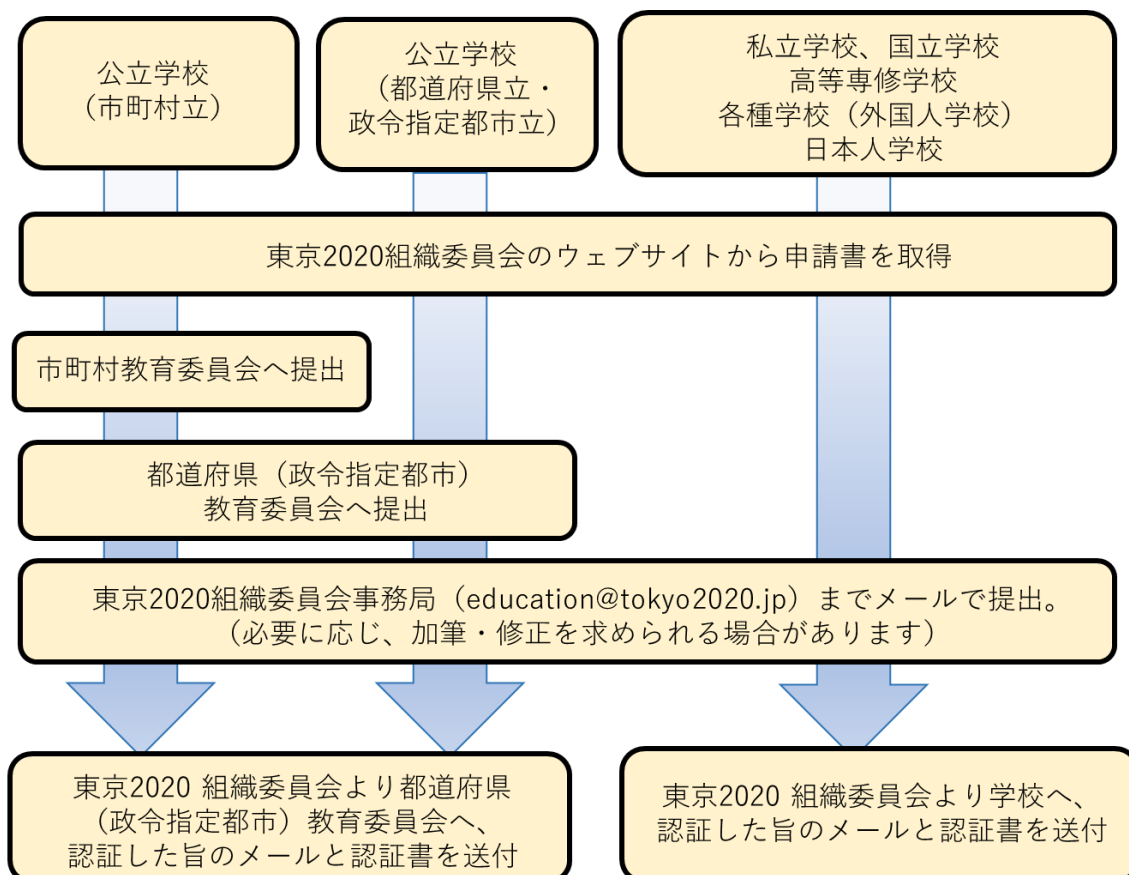
※4 公立の幼保連携型認定こども園の場合、当該自治体における認定こども園所管部署が教育委員会であれば、教育委員会へ提出。所管部署が教育委員会以外の場合は、直接、組織委員会に提出。

【私立学校^{※5}、国立学校、専修学校高等課程（以下、「高等専修学校」と言う。）、各種学校（外国人学校）、日本人学校（以下、「私立・国立学校等」と言う。）】

設置者（例：私立学校の場合は学校法人、国立学校の場合は国立大学法人）が申請者として、直接、東京 2020 組織委員会に申請書一式を提出する。

※5 私立の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校。以下、「私立学校」と言います。

<申請から認証まで>

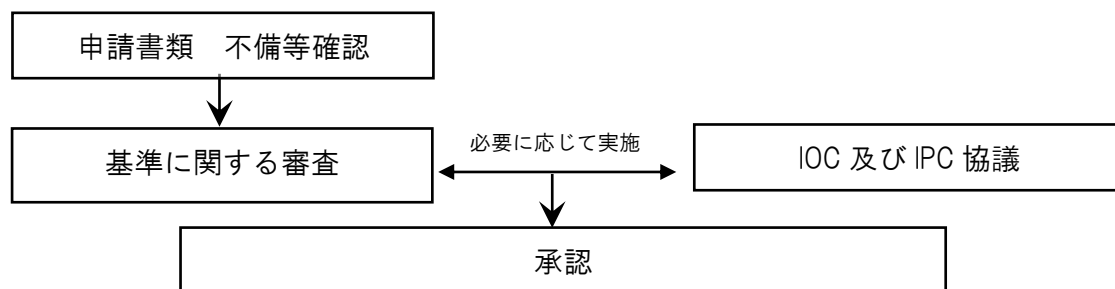


2) 審査プロセス

提出された申請書一式を東京 2020 組織委員会において精査し、承認する。

なお、IOC（国際オリンピック委員会）もしくはIPC（国際パラリンピック委員会）が情報を必要とした場合や東京 2020 組織委員会の審査プロセスにおいて疑義が生じた場合、IOC 及び IPC に確認する場合がある。また内容等に疑義が生じた場合、申請者に確認・差戻し等を行う。

<審査の流れ>



3) 認証に関する通知・連絡

東京 2020 組織委員会は、採否に関わらず、提出書類に基づき、申請書一式を提出した者に対し、メールで通知するものとする。なお、審査過程における疑義等の照会・確認等に係る東京 2020 組織委員会からの連絡は電話及びメールで行うものとする。

(2) 提出書類

提出資料は、全て電子媒体（Microsoft Word・Excel・Powerpoint、PDF・JPEG 形式等。なお、元の様式が Excel の場合、PDF 形式等に変換はせず、そのままのファイルで提出すること。）で、メールでの提出を基本とする。

1) 申請時

①必要書類

下記の申請書一式を、上記 5（1）1）に従って、公立学校の場合は管轄教育委員会を通じて東京 2020 組織委員会に、私立・国立学校等の場合は、直接東京 2020 組織委員会に申請すること。

ア. 申請書類

- ・ 申請書
- ・ マーク等の使用等に関する確認書^{※6}

^{※6} 公立学校については、学校の設置者である地方公共団体が教育委員会、もしくは管轄教育委員会が捺印したものを、管轄教育委員会が東京 2020 組織委員会に提出する。私立学校、国立学校等の場合は、各設置者が捺印したものを、組織委員会に直接提出する。また、捺印は原則、代表者印とする。

イ. 添付書類

- ・各学校のプログラム内容がわかる資料※⁷

※⁷ 市内の学校全てで、教育委員会が示したプログラムを展開する場合など、複数の学校で取組が重複する場合には、教育委員会がまとめて提出して構わない。

- ・公立学校の場合、管轄教育委員会は、別紙1の「参加校一覧」を添付。

②書類提出先（メール提出）

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

企画財務局アクション&レガシー部

E-mail: education@tokyo2020.jp（申請専用アドレス）

③留意事項

- ・上記に掲げる申請書一式は、マーク等及びマスコットイラスト使用申請書を除き、全て揃えて提出すること
なお、マーク等及びマスコットイラスト使用申請書を追って提出する場合には、後記2）に従って提出すること
- ・審査の段階で補足資料等を東京2020組織委員会が求めた場合は、遅滞なくこれを提出すること
- ・IOCもしくはIPC協議が必要になった場合、申請書類を英訳して提出すること
- ・提出された書類及び資料は返却しないため、必ず控えを取ることに
- ・申請書等を提出後、活動内容に大きな変更が生じることのないよう、内容については十分検討の上、具体的に記入すること
- ・事業の中止及び内容の変更が生じた場合には、速やかに通知すること

2) マーク等及びマスコットイラスト使用申請時

公立・私立・国立学校等は、教育現場の外の不特定多数に向けてマーク等又はマスコットイラストを使用する場合、マーク等又はマスコットイラストの使用予定の日の2週間前までに、直接、下記メールアドレスに提出すること。

① 必要書類

- ・マーク等及びマスコットイラスト使用申請書
- ・添付書類※⁸

※⁸ マーク等又はマスコットイラストの利用方法がわかる資料（マーク等又はマスコットイラストを使用したデザインデータ）を添付すること。

②書類提出先（メール提出）

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

企画財務局アクション&レガシー部

E-mail: education@tokyo2020.jp（申請専用アドレス）

3) 実績報告時

管轄教育委員会又は私立・国立学校等は、年度終了後 2 か月以内に、所定の様式による実績報告書を提出しなければならない。東京 2020 組織委員会は、実績報告書等に基づき、東京 2020 組織委員会ウェブサイト概要を公表する。

なお、年度の途中でプログラムを終了した場合においても、プログラム終了後、同様の対応を行うこととする。

【公立学校】管轄教育委員会が、組織委員会に提出。

【私立・国立学校等】各設置者が、組織委員会に提出。

① 必要書類

<必須>

・実績報告書

<任意>

・取組内容に係るアンケート

・取組内容を示す写真データ（東京 2020 大会の広報活動に使用（組織委員会ウェブサイトへの掲載等）する可能性があるため、肖像権、著作権に問題の無いもの。JPEG・PNG 形式のいずれかで、画像サイズ等がウェブ使用に際して支障がないこと）。

② 書類提出先（メール提出）

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

企画財務局アクション&レガシー部

E-mail: education@tokyo2020.jp（申請専用アドレス）

4) 変更時

認証を受けた後、実施期間中に変更が生じた場合（学校名称の変更、窓口となる担当者の変更、申請者が教育委員会においては公立学校の追加等）、上記 5（1）1）に従って、公立学校の場合は管轄教育委員会を通じて東京 2020 組織委員会に、私立・国立学校等の場合は、直接、東京 2020 組織委員会に「変更届」を提出すること。

6 留意事項等

（1）留意事項

- ① 事業の認証を受ける場合には、設置者である地方公共団体もしくは管轄教育委員会（公立学校）、私立・国立学校等の各設置者（以下、各学校を含み、「主催者等」と総称する。）は、本活動実施にあたり、別添「マーク等の使用等に関する確認書」に記載の条件を遵守することを誓約しなければならない。
- ② 主催者等は、マーク等を使用する際には、別途東京 2020 組織委員会が定める「マーク等取扱い基準」に従うものとする。
- ③ 東京 2020 組織委員会は、認証事業が、本ガイドラインその他関係規則（以下「本ガイドライン等」という。）に反することがないように、必要に応じて主催者等に、指導・助言を行うことができる。また、認証後に、主催者等が、本ガイドライン等が定める禁止事項に抵触し、または東京 2020 組織委員会の指示に違反するなど、東京 2020

組織委員会において認証事業の実施が不適当と認める場合には、東京 2020 組織委員会は、その裁量により、認証およびマーク等の使用許諾の全部又は一部をいつでも解除することができる。この場合には、当該主催者等は、組織委員会の指示に従って、上記「3 事業認証を受けた学校が実施可能な事項」に記載の各行為を直ちに中止しなければならない。

- ④ 東京 2020 組織委員会は、必要に応じて、本ガイドライン等を改訂できるものとし、認証事業の主催者等が改訂後のガイドライン等が公表された後に認証事業を実施した場合には、改訂後のガイドライン等に同意したものとみなす。

（2）情報の公開

東京 2020 組織委員会は、事業の認証を受けた学校について、学校の名称や問合せ先、活動概要等の情報を、申請書類、実施報告の範囲内で匿名化等の改変をして、東京 2020 組織委員会ウェブサイト等の広報資料で公表する。その際、本活動に付随する権利（肖像権、著作権等）の処理等は申請者（主催者等）の責任において実施するものとする。また、東京 2020 組織委員会は、事業概要等について、審査や事後評価等のため外部有識者に提供することがありえる。

（3）個人情報の取扱

申請書に記載された個人情報は、東京 2020 組織委員会のプライバシーポリシーに関する規定に則り、適正に管理する。

7 その他

東京 2020 教育プログラムに関する問い合わせ先は以下のとおり。

東京 2020 参画プログラムコールセンター

Tel: 0570-00-6620（有料）

受付時間：平日 9:00～17:00 ※土日祝日、年末年始除く